

日本人の幸福感の実証的研究（その2）

——幸福度指標とその決定要因に関する再検証——

辻 隆 司[†]
児 玉 恵 美[‡]

An Empirical Study on Japanese Happiness:
Re-examination on Happiness Index and Determinants

Tsuji, Takashi
Kodama, Emi

Abstract

The purpose of this paper is to re-examine the happiness index and its determinants using individual questionnaires conducted by the authors in order to explore the source of Japanese happiness. We reflected the explanatory variables that were pointed out in the previous research, the explanatory variables that were insufficiently verified, and the explanatory variables whose verification results differed by the previous research in the analysis model, and re-examined the determinant structure of the happiness index. In addition, we analyzed using three types of happiness index, Subjective Well-Being (SWB), Life Satisfaction (LS) and Diener's Satisfaction With Life Scale (SWLS), and we also focused on influence of the difference of these happiness indices.

[†] 愛知大学経済学部教授, tsuji@vega.aichi-u.ac.jp

[‡] 広島修道大学健康科学部教授

1. はじめに¹

本稿の目的は、日本人の幸福の源泉を探るべく、筆者らが独自に実施した個人向けアンケート調査の個票を用いて、幸福度指標とその決定要因に関する再検証を行うことである。

日本人の幸福感に関する実証的研究は2000年代の中頃から活発化したが、先駆的な研究としては、Ohtake and Tomioka (2004)、大竹 (2004)、筒井・大竹・池田 (2005)、白石・白石 (2006)、白石・白石 (2007)、松浦 (2007)、佐野・大竹 (2007)、山根・山根・筒井 (2008)、Oshio and Kobayashi (2009) などが存在する。これらの先行研究では、労働と幸福感、ワークライフバランスと幸福感、ライフステージの変化と幸福感、居住地域と幸福感、所得格差と幸福感の関係など、様々な視点で分析が行われており、日本人の幸福感の規定要因について、それぞれ興味深い結果が報告されている。

しかし、幸福度指標とその決定要因構造は、理論的にも経験的にも未だ十分に確立されていない。研究蓄積の厚みが増しているにも関わらず、幸福感を捉える決定的な幸福度指標が存在するわけではなく、また、先行研究において示唆された重要な決定要因が後継研究の幸福度関数の推定に十分に反映されていないケースが散見されるなど、日本人の幸福感を規定する要因については研究者間で十分にコンセンサスが得られていない。もっとも、データ制約や仮説設定の違いなどの理由で、想定する関数構造が異なることは致し方ない面もあろう。しかし、多くの先行研究で重要性が指摘されている決定要因を欠落したまま、幸福度関数を推定することは推定結果に深刻なバイア

¹ 本研究は JSPS 科学研究費補助金 (基盤研究(C)16K03675 研究代表者 辻 隆司) の助成を受けたものです

スをもたらす可能性がある。現状としては、各研究者の独自の考えや直感的な設定等に頼っているが、わが国の幸福度研究のさらなる発展を望むためには、先行研究の経験的知見に基づき、より頑健な結果を求めて検証を重ねることが重要である。

そこで本稿では、日本人の幸福感を表す幸福度指標とその決定要因について再検証し、後継研究に基盤的知見を与える。先行研究から得られた知見をもとに、重要性が指摘された説明変数や検証不十分な説明変数、先行研究によって検証結果がわかれている説明変数等を導入し、幸福度の決定要因構造を改めて検証する。分析対象とする幸福度指標は、主観的幸福度 (Subjective Well-being, SWB)、生活満足度 (Life Satisfaction, LS)、Diener の人生満足度 (Satisfaction With Life Scale, SWLS) の3種類を採用し、幸福度指標の違いの影響にも着目して分析を進める。そして、これらの分析結果をもとに、日本人の幸福感に関する基本的な決定要因構造を模索する。

以降においては、まず、使用データについて解説する。次に、推定方法と幸福度関数の設定について説明する。そして、推定結果の詳細についてまとめ、最後に結論を述べる。

2. 使用データ

本稿で使用したデータは、全国の18歳以上の男女を対象に実施したインターネットアンケート調査（「日常についてのアンケート」）の個票である²。幸福感に関する質問に加えて、年齢、性別、所得、資産、学歴、職業、家族構成、住居、健康状態、価値観、生活習慣、居住地域などの個人属性要因を様々な観点で把握している。調査期間は、2019年1月31日（木曜日）

² 調査設計と調査票の作成は筆者らが行い、インターネット調査の回答依頼・回収等はインターネット調査の専門会社であるマイボイスコム株式会社に委託した

～2月6日（水曜日）の一週間であり、平日と土日を含む期間で実施している³。有効回収数は5,470件⁴であり、サンプル割付けは、性別（男性、女性）、年齢（30歳未満、30歳以上60歳未満、60歳以上）、地域（東京23区、一都三県（東京都（除く、東京23区）、千葉県、埼玉県、神奈川県）、政令指定都市（除く、一都三県内の政令指定都市）、その他地域）を軸に、なるべく均等に回収できるように調整した⁵。

既述のとおり、今回の分析で採用した幸福度指標は、主観的幸福度、生活満足度、Dienerの人生満足度の3種類である。「幸福の経済学」では、主観的幸福度を採用している先行研究が多いが、生活満足度も伝統的によく用いられている。生活満足度と主観的幸福度のどちらを採用すべきかについては、先行研究ごとに取り扱いがわかれており、明確には定まっていない。また、Dienerの人生満足度は、Diener, E., Emmons, R. A., Larsen, R. J., & Griffin, S. (1985) によって提唱された幸福度指標であるが、経済学分野における日本人の幸福感の実証的研究では、ほとんど採用されていない。しかし、幸福学全般の先行研究では、よく用いられる代表的な指標の一つであり、分析対象として検証する価値は高い。今回の分析で用いるアンケート調査では、主観的幸福度、生活満足度、Dienerの人生満足度のいずれの質問も把握しているため、本稿ではこれら3種類の指標を分析対象として議論を進める。

なお、それぞれの幸福度指標の把握方法は次のとおりである。まず、主観的幸福度に関する具体的な質問方法は、「全体として、あなたは普段どの程度幸せだと感じていますか」と質問し、「とても幸せ」を10点、「とても

³ 平日と休日では心理的な状況が異なる可能性が高く、また、同じ平日でも休日明けと休日前ではやはり心理的な状況が異なると考えられたため、回答バイアスを極力避けるために調査期間を1週間とし、なるべく万遍なく回答を収集できるように調整した

⁴ 調査対象はマイボイスコム株式会社が有する全国約110万人のアンケートモニターから抽出した

⁵ サンプル割付ごとの有効回収数や、アンケートの回答者属性は後掲参考図表を参照されたい

不幸」を0点として11段階の順序尺度で回答を得ている。生活満足度については、「全体として、あなたは現在の生活に満足していますか」と質問し、「とても満足」を10点、「とても不満」を0点として11段階の順序尺度で回答を得た。そして、Dienerの人生満足度は、「ほとんどの面で、私の人生は私の理想に近い」、「私の人生は、とてもすばらしい状態だ」、「私は自分の人生に満足している」、「私はこれまで、自分の人生に求める大切なものを得てきた」、「もう一度人生をやり直せるとしても、ほとんど何も変えないだろう」の5種類の質問に対して、7件法（1＝まったく当てはまらない、2＝ほとんど当てはまらない、3＝あまり当てはまらない、4＝どちらともいえない、5＝少し当てはまる、6＝だいたい当てはまる、7＝非常によく当てはまる）で回答を得て、これら5種類の質問の数値を合計して人生満足度の総合得点を算出した。このため、最小値は5点、最大値は35点のスケールとなり、総合得点が高いほど自身の人生に満足しており幸福感が高く、逆に、総合得点が低いと人生に不満が多く幸福感が低いと判断できる。

なお、今回の分析に用いた幸福度指標（主観的幸福度、生活満足度、Dienerの人生満足度）の基本統計量は、図表1のとおりである。それぞれの平均値は、主観的幸福度が5.979点、生活満足度は5.867点、Dienerの人生満足度は18.681点である。また、中央値は、主観的幸福度が6点、生活満足度は6点、Dienerの人生満足度は20点である。図表2のヒストグラムを確認すると、主観的幸福度と生活満足度の分布形状は、5点～8点の頻度が多くなっており、概ね類似している。ただし、部分的には違いもみられ、最頻値を比較すると、主観的幸福度は5点であるのに対して生活満足度は8点となっている。Dienerの人生満足度はスケールが異なるため単純には比較できないが、主観的幸福度と生活満足度の分布形状とは様相が異なる。全体的には最頻値の20点を境にほぼ左右対称に分布しているが、10点未満の頻度が31点以上の頻度と比べると相対的に多くなっている。とりわけ、最低点の5点の頻度が顕著に多くなっているため、最頻値（20点）と中央値（20

点) よりも平均値 (18点) の方が低くなっている。

3. 推定方法

以上の様な特徴を持つアンケート調査の個票を用いて、幸福感を被説明変数とする幸福度関数の推定を行う。幸福度関数の推定方法は以下の通りである。既述のとおり、今回用いる幸福感の代理指標は、主観的幸福度、生活満足度、Dienerの人生満足度であるが、これらのデータは、いずれも順序尺度データである。被説明変数のデータが連続データではなく順位が付けられた質的データで捉える場合、通常最小二乗法 (OLS) では、一致性が満たされなくなる可能性がある。このため、今回は、順序プロビットモデルによる推定を行う。

Hが幸福感 (主観的幸福度、生活満足度、Dienerの人生満足度のいずれか)、誤差項が ε 、性別、年齢、所得、資産、価値観、居住地域などの個人属性要因に関する説明変数ベクトルがX、各変数の推定パラメータベクトルが α であるとき、今回想定した幸福度関数は下式のように記述できる。このモデルの被説明変数を入れ替え、主観的幸福度、生活満足度、Dienerの人生満足度のそれぞれについて推定する。

$$H = \alpha X + \varepsilon \tag{1}$$

ここでは、幸福度指標の種類別、回答者別、及び個人属性要因に関する説明変数種別の表記は省略している。順序プロビットモデルを用いて上式を推定し、 \hat{a} と、境界値 (しきい値) である μ を求める。今回の分析では、主観的幸福度と生活満足度が0～10の値をとるため11段階の選択肢となる。一方、Dienerの人生満足度は5～35の値をとるため、31段階の選択肢となる。例えば、n+1段階の選択肢の順序尺度データの場合は、H値を次のように記述することが出来る。

$$\begin{aligned}
 H &= 0 \text{ if } H \leq 0 \\
 &= 1 \text{ if } 0 < H \leq \mu_1 \\
 &= 2 \text{ if } \mu_1 < H \leq \mu_2 \\
 &\dots \\
 &= n \text{ if } \mu_n < H
 \end{aligned}
 \tag{2}$$

なお、今回採用した個人属性要因に関する説明変数は、性別、年齢、婚姻状況、子供、世帯形態、同居状況、住居形態、最終学歴、職業、雇用形態、失業、勤務時間の規則性、月間の休暇日数、収入⁶、消費支出、金融資産、負債、健康状態、心理的ストレス、価値観、生活習慣等、社会関係資本、居住地域である⁷。今回の推定で採用した説明変数は、Ohtake and Tomioka (2004)、大竹 (2004)、筒井・大竹・池田 (2005)、白石・白石 (2006)、白石・白石 (2007)、松浦 (2007)、佐野・大竹 (2007)、山根・山根・筒井 (2008)、Oshio and Kobayashi (2009) などの先行研究を参考に、データ制約等を勘案しつつ選択を行った。

日本人の幸福感の実証的研究のサーベイを行った辻・児玉 (2019) によると、性別、年齢・年代、婚姻状況、本人の健康状態、収入、失業・雇用不安などは、多くの先行研究において幸福度関数の説明変数として導入されており、同時に、これらの要因は多くの先行研究において安定的に有意な結果が得られている。すなわち、先行研究ごとの幸福度指標の種類や関数構造、使用データなどが異なろうと幸福感に対して重大な影響を及ぼす可能性が高

⁶ 収入要因については、世帯収入、最近3年間の年収の変化、2019年の年収の変化の見通しの3種類の説明変数を導入している。なお、世帯収入に関しては同居人数で除した等価世帯収入を使用している。これは、たとえ世帯収入が1千万円を超える比較的裕福な家庭でも扶養家族を多く抱える場合は、家族を養うために十分な所得水準であるとは限らないためである。また、所得上昇に伴う逓減効果を捉えるために、等価世帯収入の1次項に加えて2次項（2乗項）も加えている

⁷ 説明変数の詳細は、後掲図表3、図表4を参照

く、幸福度関数の推定においては欠かすことのできない重要な決定要因であると考えられる。子供の有無や人数、最終学歴についても同じように多くの先行研究で説明変数として反映されているが、これらは先行研究によって有意な結果が得られていないケースがあるため、この限りではない。ただし、全体的には概ね有意な結果が得られているため、これらも重要な決定要因として位置づけられる。以上のことから、性別、年齢・年代、婚姻状況、本人の健康状態、収入、失業・雇用不安、子供、最終学歴は、欠かすことができない決定要因として本稿においても説明変数として採用した。また、住居の形態、嗜好・価値観、資産状況などは、データ制約や仮説設定の違いなどの理由により、幸福度関数モデルの説明変数として反映している先行研究はやや少なくなるものの、複数以上の先行研究において有意かつ頑健な結果が得られている。このため、これらの説明変数も本稿の分析で採用した。

他方で、同居人数、家族の健康状態、習慣・宗教、心理的ストレス、社会関係資本などの要因は、これらの説明変数をモデルに反映した先行研究において、概ね頑健かつ有意な結果が得られている。しかし、説明変数として採用している先行研究が少なく、その重要性は判然としない。また、世帯形態、職業・雇用形態、地域・生活環境などについては、先行研究によって推定結果の傾向に違いがある。頑健かつ有意な結果を得られている先行研究がある一方で、一部の推定結果において有意な結果が得られたものの全体として頑健性が認められないものや、試行した全ての推定で有意な結果が得られなかった先行研究があるなど、全体的に不安定な結果となっている。負債、消費は、全国調査に基づく研究においては幸福度関数に反映していた先行研究はなかったが、高齢者を分析対象にした松浦（2002）や結婚・出産・子育て適齢期の女性を分析対象にした白石・白石（2006）、白石・白石（2007）などの特定の集団を対象に分析した先行研究においては説明変数として導入されている。その結果、負債に関しては必ずしも頑健かつ有意な結果は得られていないが、消費に関しては頑健かつ有意な結果を得ている。

すなわち、これらの決定要因については、検証回数が少ないこと、先行研究ごとに見解がわかれていること、全国調査ではなく特定の集団を対象にした分析であることなどの理由で検証不足の可能性があり、後継研究によって追加的な検証が期待される分析テーマといえよう。本稿では、同居人数、家族の健康状態、習慣・宗教、心理的ストレス、社会関係資本、世帯形態、職業・雇用形態、地域・生活環境、負債、消費などの要因についても説明変数として採用し、再検証を試みることにした。

4. 推定結果

推定結果は、図表3のとおりである。まず、多くの先行研究で頑健な結果が得られている性別、年齢、婚姻状況、健康状態（「本人の健康状態」）、収入、失業などを確認すると、被説明変数が主観的幸福度と生活満足度のケースでは、これらの決定要因のすべてについて有意な結果が得られた。特に、性別（「女性」（プラス要因））、婚姻状況（「結婚経験なし」（マイナス要因））、「離別」（マイナス要因）、健康状態（「本人の健康状態」（プラス要因））、収入（プラス要因）、失業（マイナス要因）に関する変数は、有意水準1%点において有意な結果となっている。一方、Dienerの人生満足度については、性別（「女性」（プラス要因））、婚姻状況（「結婚経験なし」（マイナス要因））、「離別」（マイナス要因）、健康状態（「本人の健康状態」（プラス要因））、失業（「あなたご自身またはご家族が2年以内に失業する（自営業の場合は廃業）可能性がある」（マイナス要因））については有意な結果となったが、年齢、失業（「現在、失業しており求職中であるが、求職活動がうまくいっていない」）、収入（「等価世帯収入」、「等価世帯収入の2乗」）については有意な結果が得られなかった。同じように多くの先行研究で説明変数として反映されている最終学歴については、3種類のいずれの幸福度指標も有意な結果が得られなかったが、子供（「子供人数」）については結果がわかれ、主

観的幸福度と生活満足度は有意水準 5 %点において有意な結果が得られているのに対して、Diener の人生満足度は有意な結果ではなかった。また、住居形態についても結果がわかれ、主観的幸福度は住居形態（「借家（一戸建て）」（マイナス要因））において有意な結果が得られ、生活満足度は住居形態（「借家（集合住宅）」（マイナス要因））において有意な結果が得られたが、Diener の人生満足度はすべての住居形態において有意な結果は得られなかった。

すなわち、多くの先行研究で重要性が指摘されている性別、年齢、婚姻状況、健康状態（「本人の健康状態」）、収入、失業などの決定要因は、主観的幸福度や生活満足度を分析する上では欠かすことのできない重要因子であると考えられる。ただし、Diener の人生満足度の場合は、年齢、失業（「現在、失業しており求職中であるが、求職活動がうまくいっていない」、収入（「等価世帯収入」、「等価世帯収入の 2 乗」）については有意な結果が得られなかったため、これらは常に重要であるとは限らない。分析対象として採用する幸福度指標の種類によっては、それらの特性を理解した上で慎重に検討する姿勢が必要となろう。

他方で、先行研究の多くにおいては、必ずしも説明変数として幸福度関数に導入されていないが、今回の推定結果においては、主観的幸福度、生活満足度、Diener の人生満足度のいずれにおいても有意な結果が得られたものがある。これらを列挙すると、まず、金融資産（プラス要因）に関しては、3 種類の幸福度指標のすべての推定結果において、1 次項、2 次項ともに有意水準 1 %点において有意な結果であった。また、健康状態（「家族の健康状態」（プラス要因））、心理的ストレス（「普段、家事負担（炊事・洗濯・掃除等）にストレスを感じている」（マイナス要因））、勤務時間の規則性（「自由度の高い不規則的な勤務時間」（プラス要因））についても、3 種類の幸福度指標のすべての推定結果において有意水準 1 %点で有意な結果が得られた。

さらに、価値観、生活習慣等、社会関係資本に関する説明変数の多くも、主観的幸福度、生活満足度、Dienerの人生満足度のすべてにおいて有意な結果が得られている。まず、価値観では、「貧困者への寄付率」（プラス要因）、「ほかの人の生活水準を意識している」（マイナス要因）、「自分は盗難にあうことはない」（プラス要因）などが有意な結果であった。生活習慣等では、「自己啓発をしている」（プラス要因）、「近くの公園など、憩いの場所でくつろぐことが多い」（プラス要因）、「規則正しい生活がおくれていない」（マイナス要因）、「神、仏、天使、悪霊などのスピリチュアルなものが実在すると信じている」（プラス要因）などが有意な結果を得た。また、社会関係資本では、「困ったときは、親戚同士で助け合うことが多い」（プラス要因）、「困ったときは、どの様なことでも親身になって相談にのってくれる人がいる」（プラス要因）、「夕食を家族と一緒にとることが多い（目安：1週間の夕食のうち5日以上）」（プラス要因）、「知人は少ないほうだ」（マイナス要因）、「食事を友人・知人と一緒にとることが多い（目安：1週間に2回以上）」（プラス要因）、「メール、SNS等で家族と連絡を取り合うことが多い（目安：2～3日に1回以上連絡を取り合う）」（プラス要因）などが、3種類の幸福度指標のすべての推定結果で有意な結果であった。

既述のとおり、これらの決定要因は、先行研究の多くにおいて必ずしも採用されていないが、いくつかの先行研究においては個別に重要性が指摘されている説明変数である。今回の推定結果においては、主観的幸福度、生活満足度、Dienerの人生満足度のすべてにおいて有意な結果が検出されたため、改めてその重要性が支持された形といえよう。

また、図表4は、失業に関する2種類の説明変数（「現在、失業しており求職中であるが、求職活動がうまくいっていない」、「あなたご自身またはご家族が2年以内に失業する（自営業の場合は廃業）可能性がある」と、収入に関する4種類の説明変数（「等価世帯収入」、「等価世帯収入の2乗」、「最近3年間（2016～2018年）の年間総収入（税込）の変化の実績」、「2018

年と比べて2019年のあなたの年間総収入（税込）の変化の見通し）、金融資産の2種類の説明変数（「世帯の金融資産」、「世帯の金融資産の2乗」）を除外して改めて推定した結果である。職業に関する説明変数の「無職（失業・求職中）」と失業に関する2種類の説明変数（「現在、失業しており求職中であるが、求職活動がうまくいっていない」、「あなたご自身またはご家族が2年以内に失業する（自営業の場合は廃業）可能性がある」）との間で相関性が高いこと、また、収入、消費、資産、負債などの経済変数同士において相関性が高いことから、誤った推定に陥っていた可能性がある。このため、説明変数間の強い相関を回避するべく、説明変数を絞り込んだ上で再推定を試みた。

まず、職業に関する説明変数の「無職（失業・求職中）」の推定結果について確認すると、図表3では、主観的幸福度の結果のみ有意水準10%点において意外にもプラスで有意な結果が得られ、その他の推定結果では有意な結果が得られなかった。これに対して、図表4においては、逆に主観的幸福度の有意性は失われ、生活満足度とDienerの人生満足度においてマイナスで有意な結果が得られた。

また、消費支出の「平均消費支出」に関しては、図表3では、いずれの推定結果においても有意な結果が得られなかったが、図表4においては、主観的幸福度と生活満足度の推定結果において有意水準1%点で有意な結果となった。負債に関しては、「世帯の負債」は3種類のいずれの幸福度指標においても有意な結果は得られず、生活満足度の「世帯の負債の2乗」のみ有意水準10%点で有意な結果となるなど、全体的には頑健な結果が得られなかった。すなわち、消費、負債に関しては、特定の集団を対象にした先行研究である松浦（2002）、白石・白石（2006）、白石・白石（2007）などの結果とほぼ同様の傾向を示したことになる。このため、消費支出に関する要因については、全国調査に基づく分析においても重要な決定要因になる可能性があることを示唆していよう。

5. おわりに

以上のように、本稿では、筆者らが独自に実施したアンケート調査をもとに、日本人の幸福感を表す幸福度指標とその決定要因について再検証した。先行研究において重要性が指摘された説明変数や検証不十分な説明変数、先行研究によって検証結果が異なる説明変数等を網羅的に反映し、幸福度指標の決定要因構造について改めて検証した。また、分析対象の幸福度指標は、伝統的によく用いられる主観的幸福度、生活満足度に加えて、Dienerの人生満足度の3種類を採用し、これら幸福度指標の違いの影響にも着目して分析を進めた。

その結果、多くの先行研究において頑健な結果が得られている性別、年齢、婚姻状況、本人の健康状態、収入、失業などの要因については、本稿の分析においても概ね有意な結果となり、その重要性を追認する結果となった。

他方で、一部の先行研究で有意な結果が得られている世帯の金融資産、家族の健康状態、家事負担のストレス、勤務時間の規則性、選好・価値観、生活習慣等、社会関係資本などの要因についても、主観的幸福度、生活満足度、Dienerの人生満足度のすべての推定結果において有意な結果が得られるなど、これらの決定要因の重要性を後押しする形となった。

ただし、年齢、子供人数、住居形態などについては、主観的幸福度、生活満足度、Dienerの人生満足度のそれぞれで推定結果の傾向が異なった。すなわち、分析対象として採用する幸福度指標の種類によって重要な決定要因は異なる可能性があり、幸福度指標の採用とその分析には慎重なスタンスで検証する必要があることが示唆された。

以上のように、本稿では、独自のアンケート調査結果を用いた再検証により、日本人の幸福感の実証的研究を行う上で欠かすことができない重要な決定要因を模索した。また、幸福度指標の種類が異なっても頑健な形で有意な

結果が得られる決定要因を明らかにするなど、先行研究では示されていない新たな知見も見出した。これらの研究成果は、後継研究において幸福度の決定要因構造を検討する際の参考になる可能性があるだろう。今後の幸福度研究の発展に資することを期待したい。

〈参考文献〉

- Diener, E., Emmons, R. A., Larsen, R. J., & Griffin, S. (1985), "The satisfaction with life scale." *Journal of Personality Assessment*, 49, 71-75.
- Diener, E., Suh, E. M., Lucas, R. E., & Smith, H. L. (1999), "Subjective well-being: Three decades of progress" *Psychological Bulletin*, 125, 276-302.
- Easterlin, Richard A (1974), Does Economic Growth Improve the Human lot? Some Empirical Evidence. *Nations and Households in Economic Growth: Essays in Honour of Moses Abramowitz*. New York and London: Academic Press, 89-125.
- Frey, B. S., and Stutzer, A. (2002a), *Happiness and Economics*, Princeton University Press (邦訳 佐和隆光監訳・沢崎冬日訳『幸福の政治経済学—一人々の幸せを促進するものは何か—』ダイヤモンド社, 2005年)
- Ohtake and Tomioka (2004), "Happiness and Income Inequality in Japan," presented at International Forum for Macroeconomic Issues, ESRI Collaboration Project, February 2004.
- Oshio and Kobayashi (2009), "Regional income inequality and happiness: Evidence from Japan" No. 460, PIE/CIS Discussion Paper from Center for Intergenerational Studies, Institute of Economic Research, Hitotsubashi University.
- 大竹文雄 (2004) 「失業と幸福度」『日本労働協会雑誌』第528号, 59-68頁
- 大竹文雄・白石小百合・筒井義郎編著 (2010) 『日本の幸福度』, 日本評論社
- 小塩隆士 (2010) 『再分配の厚生分析～公平と効率を問う～』, 日本評論社
- 小塩隆士 (2014) 『「幸せ」の決まり方～主観的厚生の経済学～』, 日本経済出版社
- 佐野晋平・大竹文雄 (2007) 「労働と幸福度」『日本労働研究雑誌』第558号,

日本人の幸福感の実証的研究（その2）

4-18頁

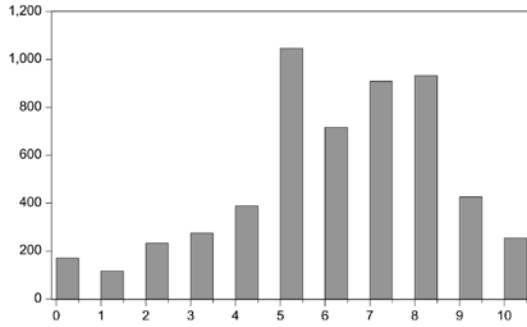
- 白石賢・白石小百合（2006）「幸福度研究の現状と課題」, 内閣府経済社会総合研究所ディスカッション・ペーパー第165号
- 白石小百合・白石賢（2007）「少子化社会におけるワーク・ライフ・バランスと幸福感 —非線形パネルによる推計—」, 内閣府経済社会総合研究所ディスカッション・ペーパー第181号
- 筒井義郎・大竹文雄・池田新介（2005）「なぜあなたは不幸なのか」, 大阪大学社会経済研究所ディスカッション・ペーパー第630号
- 辻隆司・児玉恵美（2019）「日本人の幸福感の実証的研究（その1）—幸福度指標とその決定要因に関するサーベイ—」愛知大学経済学会 Discussion Paper Series No. 24
- 松浦克己（2002）「黄昏の幸せ—高齢者の幸せ感を支えるもの」, 郵政研究所ディスカッションペーパーシリーズ No. 2002-02
- 山根智沙子・山根承子・筒井義郎（2008）「幸福度で測った地域間格差」, Discussion Papers In Economics And Business Vol.: 08-29

図表1 基本統計量

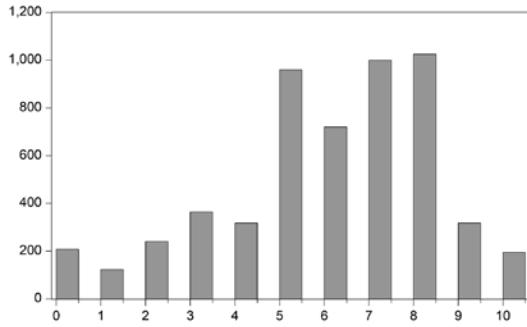
	現在の 主観的幸福度	現在の 生活満足度	Dienerの 人生満足度
Mean	5.979	5.867	18.681
Median	6	6	20
Maximum	10	10	35
Minimum	0	0	5
Std. Dev.	2.35854	2.37679	6.61569
Skewness	-0.55488	-0.63169	-0.20015
Kurtosis	2.92861	2.91415	2.78962
Jarque-Bera	281.860	365.466	46.608
Probability	0.0000	0.0000	0.0000
Sum	32,703	32,092	102,187
Sum Sq. Dev.	30,422	30,895	239,364
Observations	5,470	5,470	5,470

図表2 ヒストグラム

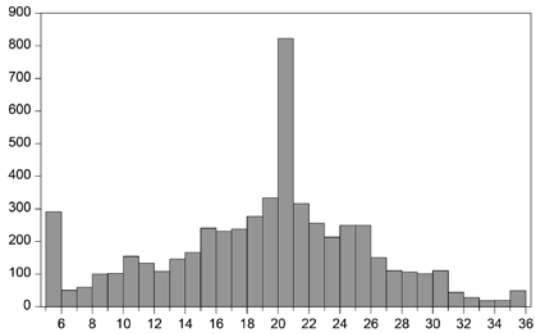
現在の主観的幸福度



現在の生活満足度



Dienerの人生満足度



図表3 幸福度関数の推定結果 (その1)

被説明変数	カテゴリー	内容	現在の主観的幸福度		現在の生活満足度		Dienerの人生満足度		
			Coefficient	Prob.	Coefficient	Prob.	Coefficient	Prob.	
説明変数	性別	参照基準	男性	0.272	0.0000 ***	0.123	0.0008 ***	0.152	0.0000 ***
			女性	0.207	0.067 *	0.207	0.167	-0.118	0.451
	年齢	参照基準	10歳代	0.206	0.0001 ***	0.210	0.0001 ***	0.150	0.0003 ***
			20歳代	0.224	0.0013 ***	0.202	0.0045 ***	-0.064	0.928
			30歳代	0.002	0.933	0.052	0.332	-0.050	0.232
			40歳代	0.859	0.144	0.103	0.897 *	0.304	0.940
			50歳代	0.018	0.820	0.055	0.485	-0.112	0.144
			60歳代	0.129	0.420	0.128	0.187	0.123	0.472
	婚姻状況	参照基準	結婚している (初婚)	-0.141	0.020 *	-0.200	0.014 **	-0.208	0.013 **
			結婚している (再婚)	-0.329	0.0000 ***	-0.318	0.0000 ***	-0.371	0.0000 ***
結婚していない (結婚経験なし)			-0.146	0.148	-0.147	0.131	-0.162	0.095 *	
結婚していない (既婚)			-0.224	0.0024 ***	-0.254	0.0007 ***	-0.358	0.0000 ***	
世帯形態	定員 zeroes	子供人数 (人)	0.056	0.030 **	0.044	0.090 **	0.019	0.412	
		単独世帯 (世帯員が一人のみ世帯)	0.006	0.189	0.126	0.0612 *	0.218	0.0014 ***	
		夫婦のみ	0.852	0.114	0.095	0.661 *	0.450	0.388	
		夫婦 (または片親) と未婚の子供	0.068	0.916	0.042	0.147	0.128	0.632 **	
同居形態	参照基準	2世代同居 (夫婦と親)	-0.023	0.680	-0.022	0.213	0.035	0.625	
		3世代同居 (夫婦とその子供、親)	0.830	0.387	0.620	0.519	-0.027	0.515	
		その他親族 (兄弟・姉妹、おじ・おば、いとこなど) との同居	0.309	0.056 ***	0.170	0.002 **	0.302	0.016 **	
		非親族 (友人・知人など) との同居	-0.179	0.029 *	-0.126	0.214	-0.201	0.0484 **	
同居状況	同居人数 (人)	-0.026	0.181	-0.018	0.558	-0.019	0.412		
最終学歴	参照基準	持ち家 (一戸建て)	-0.042	0.272	0.019	0.623	-0.004	0.908	
		持ち家 (集合住宅)	-0.174	0.028 *	-0.136	0.137	-0.117	0.194	
		借家 (一戸建て)	-0.041	0.122	-0.102	0.019 **	-0.055	0.200	
		借家 (集合住宅)	-0.015	0.848	0.006	0.953	0.043	0.678	
		寮・社宅	0.005	0.991	0.007	0.962	0.109	0.519	
		その他	-0.037	0.545	-0.023	0.746	0.017	0.750	
		大学	0.033	0.245	0.001	0.870	-0.010	0.847	
		短大・高専	-0.064	0.166	-0.021	0.628	-0.022	0.500	
		専門学校	0.029	0.467	0.002	0.970	0.001	0.804	
		高校 (旧制中学含む)	-0.020	0.792	-0.039	0.748	-0.148	0.152	
中学 (旧制小学含む)	-0.471	0.413	-0.190	0.740	-0.737	0.228			
その他									

(備考) Prob. の右付記号(*)は、**が1%有意、***が5%有意、**が10%有意水準を示す

図表3 幸福度関数の推定結果(その1)(つづき)

説明変数	カテゴリ	内容	現在の主観的幸福度		現在の生活満足度		Deenerの人生満足度		
			Coefficient	Prob.	Coefficient	Prob.	Coefficient	Prob.	
職業	カテゴリー	会社員・団体職員	参照基準						
		役員	-0.1328	0.3290	-0.1902	0.1624	-0.0639	0.6321	
		自営業	0.0353	0.6123	-0.0061	0.9455	0.0438	0.6162	
		専門職(医師・弁護士・会社士等)	0.1629	0.0821*	0.1126	0.2280	0.0584	0.5257	
		公務員(教師・大学教員を除く)	0.1420	0.1253	0.0813	0.5086	0.2020	0.0248**	
		教師・大学教員	0.0546	0.7102	0.0665	0.7021	0.1465	0.3136	
		パート・アルバイト	-0.0121	0.9217	0.0246	0.8419	0.0215	0.8601	
		学生	0.3447	0.0000***	0.3866	0.0000***	0.3489	0.0000***	
		専業主婦・専業主夫	0.1132	0.0724*	0.1253	0.0467**	0.0494	0.4257	
		その他の職業	0.1981	0.1989	0.0821	0.5051	0.1377	0.3659	
雇用形態	カテゴリー	無職(近年退職・病欠密着中)	0.1479	0.0949*	0.1042	0.2601	-0.0166	0.8501	
		正社員・職員	参照基準						
		契約社員・職員	0.1654	0.1387	-0.0164	0.8170	0.0682	0.3259	
		派遣社員・職員	-0.0337	0.7554	-0.0245	0.8215	-0.0059	0.9539	
		パート・アルバイト	0.0889	0.4698	0.0074	0.9524	0.0332	0.7852	
		その他	0.0777	0.4656	0.1547	0.1295	0.0665	0.5076	
		失業	-0.0576	0.0000***	-0.0650	0.0000***	-0.0148	0.2442	
		現任、失業しており求職中であるが、求職活動がうまくいっていない	-0.0642	0.0000***	-0.0685	0.0000***	-0.0540	0.0000***	
		あな自身またはご家族が2年以内に失業する(自営業の場合は産業)可能性がある	参照基準						
		勤務時間の風聞性	参照基準						
月間の休職日数	カテゴリー	自由度の高い不規則的な勤務時間	0.0529	0.3635	0.0134	0.8180	0.0494	0.3008	
		自由度の低い不規則的な勤務時間	0.0671	0.6007*	0.1027	0.0475**	0.1807	0.0004***	
		毎月、1日~3日	-0.2186	0.0196**	-0.3560	0.0002***	-0.1448	0.1168	
		毎月、4日~6日	0.0010	0.9899	-0.0110	0.8881	0.1290	0.1015	
		毎月、7日~9日	0.0077	0.8862	-0.0093	0.8842	0.1168	0.0230**	
		毎月、10日~12日	0.0835	0.1032	0.1101	0.0320**	0.0738	0.1440	
		毎月、13日以上	0.0172	0.8683	0.0607	0.3815	0.0235	0.7369	
		取入	参照基準						
		等価世帯収入(万円)	0.0006	0.0681***	0.0007	0.0016***	0.0000	0.1760	
		等価世帯収入の2乗(万円の2乗)	-0.0000	0.0488**	-0.0000	0.0196**	-0.0000	0.3755	
最近3年間(2016年~2018年)の年間総収入(税込)の変化の対数	0.0277	0.0238**	0.0374	0.0023**	0.0325	0.0070***			
2016年と比較した2019年のあなたの年間総収入(税込)の変化の見直し	0.0541	0.0001***	0.0529	0.0001***	0.0330	0.0132**			
消費支出	参照基準								
平均総支出(万円)	0.0036	0.1678	0.0040	0.1305	-0.0011	0.6657			
平均総支出の2乗(万円の2乗)	-0.0000	0.8651	-0.0000	0.3831	0.0000	0.2072			
金融資産	参照基準								
世帯の金融資産(万円)	0.0001	0.0000***	0.0001	0.0000***	0.0000	0.0000***			
世帯の金融資産の2乗(万円の2乗)	-0.0000	0.0016***	-0.0000	0.0002***	-0.0000	0.0087**			
負債	参照基準								
世帯の負債(万円)	0.0000	0.6340	-0.0000	0.7168	0.0000	0.5913			
世帯の負債の2乗(万円の2乗)	0.0000	0.9507	0.0000	0.1423	-0.0000	0.7337			

(備考) P 値 (Prob.) の右付け記号 (*, **, ***) は、*が5%有意、**が10%有意、***が1%有意を示す。

図表3 幸福度関数の推定結果 (その1) (つづき)

説明変数	カテゴリ	内容	現在の主観的幸福度		現在の生活満足度		Dienerの人生満足度	
			Coefficient	Prob.	Coefficient	Prob.	Coefficient	Prob.
健康状態	本人の健康状態		0.1916	0.0000 ***	0.2021	0.0000 ***	0.1678	0.0000 ***
	家族の健康状態		0.0785	0.0000 ***	0.0706	0.0000 ***	0.0642	0.0000 ***
心理的ストレス	現在の仕事の勤務時間	現在の仕事の勤務時間	-0.0089	0.4828	-0.0102	0.1713	-0.0176	0.2041
	現在の仕事について、責任の重さに	現在の仕事について、責任の重さに	0.0106	0.4274	0.0157	0.2366	0.0110	0.4022
	通勤時間	通勤時間	-0.0083	0.4674	-0.0021	0.8541	-0.0165	0.1400
	通勤時間	通勤時間	-0.0857	0.0000 ***	-0.0916	0.0000 ***	-0.0841	0.0000 ***
	通勤時間	通勤時間	-0.0043	0.7334	0.0140	0.2712	0.0226	0.0714
	通勤時間	通勤時間	-0.0197	0.0874 *	-0.0115	0.3189	-0.0089	0.9352
価値観	親戚への帰属意識 (相他性)	親戚への帰属意識 (相他性)	0.0154	0.0022 **	0.0156	0.0019 ***	0.0083	0.0025 *
	子供時代の宿題の時間 (時間制約)	子供時代の宿題の時間 (時間制約)	0.0118	0.2542	0.0190	0.0662 *	0.0107	0.2937
	ほかの人の生活水準を意識している (気になる)	ほかの人の生活水準を意識している (気になる)	-0.0824	0.0000 ***	-0.0736	0.0000 ***	-0.0708	0.0000 ***
	お金を貯めることが人生の目的だ	お金を貯めることが人生の目的だ	0.0097	0.4026	0.0288	0.0046 ***	0.0256	0.0242 **
	できるだけ質素な生活がしたい	できるだけ質素な生活がしたい	0.0067	0.5534	0.0043	0.7040	0.0216	0.0503 *
	自分は盗難にあうことはない	自分は盗難にあうことはない	0.0207	0.0706 *	0.0241	0.0329 **	0.0244	0.0022 ***
	明日に延ばしても大丈夫な仕事は明日にする	明日に延ばしても大丈夫な仕事は明日にする	0.0268	0.0153 **	0.0201	0.0065 ***	0.0124	0.2542
	普通の人と比べて、普通の人より生活が楽だと思う	普通の人と比べて、普通の人より生活が楽だと思う	0.0173	0.1298	0.0147	0.1974	0.0258	0.0218 ***
	緊急時では無いが、タクシーの代わりに救急車を呼んでも良いと思う	緊急時では無いが、タクシーの代わりに救急車を呼んでも良いと思う	0.0044	0.7255	0.0058	0.6454	0.0623	0.0000 ***
	できるだけ放射性物質に配慮して食品を選んでいる (包除回避)	できるだけ放射性物質に配慮して食品を選んでいる (包除回避)	0.0137	0.1036	0.0089	0.4135	0.0264	0.0015 ***
生活習慣等	積極的にボランティア活動をしている (町内の自発的活動等も含む)	積極的にボランティア活動をしている (町内の自発的活動等も含む)	-0.0049	0.6388	-0.0004	0.9710	0.0105	0.3034
	自己啓蒙をしている	自己啓蒙をしている	0.0452	0.0000 ***	0.0336	0.0007 ***	0.0660	0.0000 ***
	近くの公園など、悪い場所をつくることが多い	近くの公園など、悪い場所をつくることが多い	0.0327	0.0034 ***	0.0262	0.0186 **	0.0604	0.0009 ***
	規則正しい生活をおくれない	規則正しい生活をおくれない	-0.0510	0.0000 ***	-0.0547	0.0000 ***	-0.0427	0.0000 ***
	タバコを毎日吸っている	タバコを毎日吸っている	-0.0105	0.5584	-0.0164	0.0480 **	0.0045	0.5849
	ギャンブル (パチンコ、競馬、競輪、競艇など) にはまっている	ギャンブル (パチンコ、競馬、競輪、競艇など) にはまっている	-0.0101	0.4227	-0.0013	0.9166	0.0050	0.6878
	ほぼ毎日、多量のお酒を飲んでいる	ほぼ毎日、多量のお酒を飲んでいる	0.0098	0.2285	0.0150	0.1356	0.0646	0.0005 ***
	神、仏、天使、悪魔などのスピリチュアルなものがあると思う	神、仏、天使、悪魔などのスピリチュアルなものがあると思う	0.0318	0.0002 ***	0.0200	0.0202 **	0.0150	0.0769 *
	日頃、スポーツを楽しむことが多い (スポーツ観戦も含む)	日頃、スポーツを楽しむことが多い (スポーツ観戦も含む)	0.0126	0.1406	0.0068	0.4265	0.0035	0.6734

(備考) P値 (Prob.) の右付け記号 (*) は、**が1%有意、***が5%有意、*が10%有意水準を示す

図表3 幸福度関数の推定結果（その1）(つづき)

説明変数	内容	現在の主観的幸福度		現在の生活満足度		Dienerの人生満足度			
		Coefficient	Prob.	Coefficient	Prob.	Coefficient	Prob.		
カテゴリー 社会関係資本	内容	種別							
		困ったときは、ご近所同士で助け合うことが多い	郵付尺度 zeroes	0.0014	0.9124	0.0126	0.5206	0.0230	0.0642 *
		困ったときは、親戚同士で助け合うことが多い	郵付尺度 zeroes	0.0241	0.0311 **	0.0249	0.0263 **	0.0303	0.0058 ***
		困ったときは、友人同士で助け合うことが多い	郵付尺度 zeroes	-0.0172	0.1927	-0.0091	0.4928	-0.0305	0.0051 ***
		困ったときは、職場の上司・部下、同僚同士で助け合うことが多い (仕事以外のことも含めて)	郵付尺度 zeroes	0.0180	0.1298	0.0174	0.1435	0.0071	0.5443
		困ったときは、どの様なことでも親戚になって相談してくれる人が多い	郵付尺度 zeroes	0.1134	0.0000 ***	0.0858	0.0000 ***	0.1089	0.0000 ***
		朝食を家族と一緒にとることが多い(目安：ほぼ毎日、家族と一緒にとる)	郵付尺度 zeroes	0.0191	0.0446 **	0.0120	0.2059	0.0174	0.0636 *
		昼食を家族と一緒にとることが多い(目安：1週間の昼食のうち5日以上)	郵付尺度 zeroes	0.0077	0.4523	0.0011	0.9148	0.0154	0.1267
		夕食を家族と一緒にとることが多い(目安：1週間の夕食のうち5日以上)	郵付尺度 zeroes	0.0359	0.0002 ***	0.0203	0.0016 ***	0.0159	0.0024 *
		友人は少ないほうだ	郵付尺度 zeroes	-0.0039	0.8129	-0.0172	0.2938	-0.0360	0.0250 **
		友人は少ないほうだ	郵付尺度 zeroes	-0.0444	0.0054 ***	-0.0271	0.0896 *	-0.0552	0.0004 ***
		食事を友人・知人と一緒にとることが多い(目安：1週間に2回以上)	郵付尺度 zeroes	0.0263	0.0203 **	0.0317	0.0052 ***	0.0256	0.0217 **
電話で家族と連絡を取り合うことが多い(目安：2～3日に1回以上連絡を取り合う)	郵付尺度 zeroes	0.0018	0.8652	-0.0073	0.4880	-0.0061	0.5537		
メール、SNS等で家族と連絡を取り合うことが多い(目安：毎日1回以上連絡を取り合う)	郵付尺度 zeroes	0.0312	0.0017 ***	0.0308	0.0020 ***	0.0225	0.0219 **		
電話で友人・知人と連絡を取り合うことが多い(目安：2～3日に1回以上連絡を取り合う)	郵付尺度 zeroes	-0.0373	0.0022 ***	-0.0263	0.0307 **	-0.0016	0.8842		
メール、SNS等で友人・知人と連絡を取り合うことが多い(目安：毎日1回以上連絡を取り合う)	郵付尺度 zeroes	0.0036	0.7468	0.0071	0.5178	0.0176	0.1051		
居住地域									
		参照基準							
		一部三東（東京23区を除く）	-0.0011	0.9174	-0.0006	0.9985	0.0052	0.9552	
		政令指定都市（一部三東内の政令指定都市を除く）	0.0175	0.6672	0.0659	0.1068	0.0330	0.4101	
		その他地域	-0.0237	0.5778	0.0485	0.2556	-0.0309	0.4626	
		Pseudo R-squared	0.1312		0.1284		0.0810		
		observations	5470		5470		5470		

(備考) P値(Prob.)の右付け記号(*)は、**が1%有意、***が5%有意、*が10%有意水準を示す

日本人の幸福感の実証的研究 (その2)

図表4 幸福度関数の推定結果 (その2)

説明変数	カテゴリー	内容	現在の主観的幸福度		現在の生活満足度		Dienerの人生満足度	
			Coefficient	Prob.	Coefficient	Prob.	Coefficient	Prob.
性別	男性	参照基準						
		女性	0.2196	0.0000 ***	0.1167	0.0014 ***	0.1480	0.0000 ***
		10歳代	0.2905	0.0504 *	0.2282	0.1230	-0.0905	0.5376
		20歳代	0.1767	0.0008 ***	0.1736	0.0010 ***	0.0597	0.2569
	30歳代	0.1971	0.0054 ***	0.1631	0.0214 **	-0.0265	0.7043	
		40歳代						
	50歳代	-0.0053	0.9528	0.0461	0.4540	-0.0081	0.2102	
		0.0791	0.1780	0.1045	0.0757 *	0.0061	0.9572	
	60歳代	0.0316	0.6897	0.0827	0.2970	-0.0995	0.2016	
	70歳代	0.1655	0.2035	0.2605	0.1054	0.1516	0.3266	
80歳代以上								
婚姻状況	結婚している (初婚)	参照基準						
	結婚している (再婚)	-0.1488	0.0842 *	-0.2079	0.0130 **	-0.2089	0.0112 **	
	結婚していない (結婚経験なし)	-0.2382	0.0000 ***	-0.2388	0.0000 ***	-0.3290	0.0000 ***	
	結婚していない (死別)	-0.0607	0.5578	-0.0540	0.5841	-0.0959	0.3240	
	結婚していない (離別)	-0.2088	0.0052 ***	-0.2319	0.0020 ***	-0.3349	0.0000 ***	
子孫人数	子孫人数 (人)	0.0422	0.0440 **	0.0376	0.0728 *	0.0147	0.4755	
	未婚形態	参照基準						
	単独生活 (配偶者が一人のみの世帯)	0.0906	0.1857	0.1213	0.0766 *	0.2114	0.0018 ***	
	夫婦のみ	0.1010	0.0603 *	0.1143	0.0338 **	0.0545	0.3032	
	夫婦 (または片親) と未婚の子供	参照基準						
	2世代同居 (夫婦と親)	-0.0065	0.9200	0.0776	0.2324	0.1225	0.0538 *	
	3世代同居 (夫婦とその子供、親)	-0.0315	0.6438	-0.0823	0.2298	0.0293	0.6656	
	その他の親族 (兄弟・姉妹、おじ・おば、いとこなど) との同居	0.0069	0.4848	0.0436	0.6490	-0.0750	0.4308	
	非親族 (友人・知人など) との同居	0.3426	0.0130 **	0.3563	0.0116 **	0.3118	0.0245 **	
	その他	-0.1910	0.0619 *	-0.1471	0.1505	-0.2962	0.0000 **	
同居人数	参照基準							
同居人数 (人)	-0.0301	0.1964	-0.0182	0.4110	-0.0211	0.3682		
住居	持ち家 (一戸建て)	参照基準						
	持ち家 (集合住宅)	-0.0487	0.2180	0.0110	0.7804	-0.0080	0.8001	
	借家 (一戸建て)	-0.2411	0.0083 ***	-0.2117	0.0265 **	-0.1710	0.0580 *	
	借家 (集合住宅)	-0.1002	0.0176 **	-0.1508	0.0004 ***	-0.0851	0.0412 **	
	寮・社宅	-0.0246	0.8161	-0.0153	0.8850	0.0287	0.7756	
	その他	-0.0560	0.7963	-0.0557	0.7973	0.0913	0.6702	
	最終学歴	参照基準						
	大学院	-0.0015	0.9818	0.0270	0.6795	0.0512	0.4272	
	大学							
	短大・高専	0.0577	0.2882	0.0062	0.9093	-0.0134	0.8016	
専門学校	-0.0375	0.4622	-0.0590	0.2471	-0.0522	0.2963		
高校 (旧制中学校含む)	0.0138	0.7182	-0.0181	0.6328	-0.0054	0.8850		
中学校 (旧制小学校含む)	-0.0682	0.5187	-0.0838	0.4140	-0.1829	0.0723 *		
その他	-0.5902	0.3065	-0.3380	0.5521	-0.8860	0.1815		

(備考) P値 (Prob.) の右付記号 (*) は、**が1%有意、***が0.1%有意、*が10%有意水準を示す

図表 4 幸福度関数の推定結果 (その2) (つづき)

説明変数	カテゴリ	内容	現在の主観的幸福度		現在の生活満足度		Dienerの人生満足度							
			Coefficient	Prob.	Coefficient	Prob.	Coefficient	Prob.						
職業	会社員・団体職員	役員 自営業 専門職 (医師・弁護士・会計士等) 公務員 (教師・大学教員を除く) 教師・大学教員 パート・アルバイト 学生 専業主婦・専業主夫 その他の職業 無職 (失職・求職中) 無職 (定年退職・年金受給中)	参照基準											
			-0.1070	0.4259	-0.1601	0.2340	-0.0432	0.7455						
			-0.0287	0.7472	-0.0802	0.3685	0.0003	0.8976						
			0.1716	0.0666 *	0.1219	0.1912	0.0701	0.4457						
			0.1883	0.0417 **	0.1152	0.2136	0.2405	0.0084 ***						
			0.0800	0.5800	0.0802	0.5808	0.1955	0.2720						
			-0.0028	0.9816	0.0386	0.8027	0.0264	0.8282						
			0.2497	0.0004 ***	0.2865	0.0001 ***	0.2914	0.0000 ***						
			0.0375	0.5434	0.0443	0.4734	0.0190	0.7549						
			0.1277	0.4005	0.0002	0.9900	0.0895	0.5559						
			-0.1255	0.1320	-0.1977	0.0160 **	-0.1519	0.0626 *						
			0.1614	0.0152 **	0.1111	0.0946 *	0.1618	0.0136 **						
			雇用形態	正社員・職員	契約社員・職員 派遣社員・職員 パート・アルバイト その他	参照基準								
						0.0294	0.6700	-0.0658	0.1725	0.0085	0.8027			
						-0.1589	0.1388	-0.1601	0.1368	-0.0953	0.5725			
-0.0107	0.9302	-0.0691				0.4197	-0.0616	0.7942						
0.0540	0.5948	0.1302				0.2002	0.0945	0.6212						
失業	現在、失業しており求職中であるが、求職活動がうまくいっていない あな自身またはご家族が2年以内に失業する(自営業の場合は廃業)可能性がある	前月尺度データ 前月尺度データ				参照基準								
						0.0381	0.5011	-0.0038	0.9485	0.0379	0.5091 ***			
						0.1184	0.0218 **	0.1247	0.0157 **	0.1975	0.0001 ***			
						-0.2784	0.0029 ***	-0.4190	0.0000 ***	-0.1868	0.0425 **			
						0.0414	0.5936	-0.0579	0.4557	0.0952	0.2151			
						-0.0639	0.9423	-0.0242	0.6548	0.1064	0.0466 **			
						収入	等価世帯収入 (万円) 等価世帯収入の2乗 (万円の2乗) 最近3年間 (2016年~2018年) の年間総収入 (税込) の変化の残値 2018年と比べた2019年のあなたの年間総収入 (税込) の変化の残値	定値データ 定値データ 前月尺度データ 前月尺度データ	参照基準					
									0.0877	0.1151	0.1073	0.0382 **	0.0746	0.1398
									-0.0292	0.6721	0.0091	0.8954	-0.0074	0.9128
									0.0079	0.8021 ***	0.0089	0.8006 ***	0.0019	0.4489
			-0.0000	0.9881	-0.0001				0.9883 *	0.0000	0.4011			
			消費支出	世帯の金融資産 (万円) 世帯の金融資産の2乗 (万円の2乗) 世帯の負債 (万円) 世帯の負債の2乗 (万円の2乗)	定値データ 定値データ 前月尺度データ 前月尺度データ				参照基準					
									0.0000	0.5761	-0.0000	0.6813	0.0000	0.6565
									0.0000	0.7707	0.0000	0.0556 *	0.0000	0.4655

(備考) P 値 (Prob.) の右付け記号 (*) は、***が1%有意、**が5%有意、*が10%有意水準を示す

日本人の幸福感の実証的研究 (その2)

図表 4 幸福度関数の推定結果 (その2) (つづき)

説明変数	カテゴリ	内容	現在の主観的幸福度		現在の生活満足度		Dienerの人生満足度		
			Coefficient	Prob.	Coefficient	Prob.	Coefficient	Prob.	
健康状態	本人の健康状態	家族の健康状態	相序尺度データ	0.192	0.000 ***	0.295	0.000 ***	0.171	0.000 ***
			相序尺度データ	0.0843	0.000 ***	0.0768	0.000 ***	0.089	0.000 ***
心理的ストレス	現在の仕事の労働時間	現在の仕事について、責任の重さにストレスを感じている (長さ、時間数、不規則性等)	相序尺度データ	-0.0118	0.4012	-0.0207	0.1393	-0.0184	0.1828
			相序尺度データ	0.0128	0.3357	0.0177	0.1833	0.0123	0.2482
			相序尺度データ	-0.0042	0.5885	-0.0048	0.5714	-0.0183	0.1038
			相序尺度データ	-0.0844	0.000 ***	-0.0880	0.000 ***	-0.0842	0.000 ***
			相序尺度データ	-0.0181	0.1501	-0.0026	0.8340	0.0129	0.2986
			相序尺度データ	-0.0298	0.0084 ***	-0.0224	0.0517 *	-0.0046	0.6834
価値観	貧困者への寄付性 (利他性)	子供時代の裕福の程度 (時間割引率)	定値データ	0.0180	0.0003 ***	0.0188	0.0002 ***	0.0102	0.0386 **
			相序尺度データ	0.0195	0.0589 *	0.0275	0.0076 ***	0.0167	0.1007
			相序尺度データ	-0.0886	0.000 ***	-0.0807	0.000 ***	-0.0764	0.000 ***
			相序尺度データ	0.0176	0.1257	0.0425	0.0002 ***	0.0333	0.0052 **
			相序尺度データ	0.0064	0.5680	0.0041	0.7115	0.0204	0.0636 *
			相序尺度データ	0.0205	0.0720 *	0.0229	0.0382 **	0.0248	0.0019 ***
			相序尺度データ	0.0301	0.0065 ***	0.0337	0.0023 ***	0.0151	0.1653
			相序尺度データ	0.0224	0.0488 **	0.0207	0.0682 *	0.0286	0.0106 **
			相序尺度データ	-0.0077	0.5338	-0.0082	0.5082	0.0646	0.000 ***
			相序尺度データ	0.0142	0.0912 *	0.0075	0.3755	0.0268	0.0013 ***
生活習慣等	積極的なボランティア活動をしている (町内の自治会活動等も含む)	自己啓発をしている	相序尺度データ	-0.0144	0.1637	-0.0169	0.2930	0.0045	0.6592
			相序尺度データ	0.0471	0.000 ***	0.0361	0.0003 ***	0.0625	0.000 ***
			相序尺度データ	0.0137	0.2083	0.0050	0.5895	0.0251	0.0195 **
			相序尺度データ	-0.0678	0.000 ***	-0.0727	0.000 ***	-0.0534	0.000 ***
			相序尺度データ	-0.0035	0.6748	-0.0187	0.0233 **	0.0023	0.7812
			相序尺度データ	-0.0172	0.1714	-0.0096	0.4455	0.0018	0.8858
			相序尺度データ	0.0112	0.2642	0.0165	0.1012	0.0355	0.0003 ***
			相序尺度データ	0.0221	0.0088 ***	0.0088	0.3041	0.0073	0.3882
			相序尺度データ	0.0161	0.0585 *	0.0113	0.1835	0.0064	0.4471
			相序尺度データ						

(備考) P値 (Prob.) の右付付記号(*)は、**が1%有意、***が0.1%有意水準を示す

図表 4 幸福度関数の推定結果 (その2) (つづき)

説明変数	カテゴリー	内容	現在の主観的幸福感			現在の生活満足度			Dienerの人生満足度		
			Coefficient	Prob.	Prob.	Coefficient	Prob.	Prob.	Coefficient	Prob.	Prob.
説明変数	社会関係資本	困ったときは、近所同士で助け合うことが多い	0.0139	0.2895	-0.0047	0.7073	0.0138	0.2638			
		困ったときは、親戚同士で助け合うことが多い	0.0232	0.0378 **	0.0239	0.0323 **	0.0303	0.0058 ***			
		困ったときは、友人同士で助け合うことが多い	-0.0168	0.2027	-0.0093	0.4820	-0.0372	0.0042 **			
		困ったときは、職場の上司・部下、同僚同士で助け合うことが多い (仕事以外のことも含めて)	0.0086	0.4825	0.0076	0.5170	0.0054	0.7716			
		困ったときは、どの様なことでも親戚になって相談のしてくれる人が多い	0.1257	0.0000 ***	0.0998	0.0000 ***	0.1184	0.0000 ***			
		朝食を家族と一緒にとることが多い (目安: ほほ毎日、家族と一緒にとる)	0.0186	0.6507 *	0.0118	0.2151	0.0169	0.0708 *			
		昼食を家族と一緒にとることが多い (目安: 1週間の昼食のうち5日以上)	0.0052	0.6090	-0.0016	0.8748	0.0158	0.1147			
		夕食を家族と一緒にとることが多い (目安: 1週間の夕食のうち5日以上)	0.0397	0.0000 ***	0.0330	0.0003 ***	0.0184	0.0508 *			
		友人は少ないほうだ	-0.0047	0.7733	-0.0173	0.2897	-0.0332	0.0279 **			
		知人は少ないほうだ	-0.0542	0.0007 **	-0.0384	0.0157 **	-0.0614	0.0001 ***			
		食事や友人・知人と一緒にとることが多い (目安: 1週間に2回以上)	0.0274	0.0156 **	0.0329	0.0036 ***	0.0269	0.0155 **			
		電話で家族と連絡を取り合うことが多い (目安: 2~3日に1回以上連絡を取り合う)	-0.0030	0.7770	-0.0119	0.2532	-0.0088	0.3007			
		メール、SNS等で家族と連絡を取り合うことが多い (目安: 毎日1回以上連絡を取り合う)	0.0326	0.0010 ***	0.0320	0.0013 ***	0.0233	0.0172 **			
		電話で友人・知人と連絡を取り合うことが多い (目安: 2~3日に1回以上連絡を取り合う)	-0.0371	0.0023 ***	-0.0285	0.0295 **	-0.0024	0.8428			
		メール、SNS等で友人・知人と連絡を取り合うことが多い (目安: 毎日1回以上連絡を取り合う)	0.0103	0.3504	0.0143	0.1945	0.0218	0.0040 **			
居住地域											
	東京都23区	参照基準									
	一部三県 (東京23区を除く)		-0.0008	0.8845	-0.0025	0.9502	0.0015	0.9706			
	政令指定都市 (一部三県内の政令指定都市を除く)		0.0138	0.329	0.0357	0.1477	0.0303	0.4776			
	その他地域		-0.0346	0.1443	0.0300	0.4659	-0.0443	0.3232			
	Pseudo R-squared		0.1226		0.1173		0.0775				
	observations		5470		5470		5470				

(備考) P値 (Prob.) の右付記号 (*) は、**が1%有意、***が5%有意、*が10%有意水準を示す

日本人の幸福感の実証的研究（その2）

参考図表 アンケート調査の回答者属性

性別

		度数	%
	男性	2730	49.9
	女性	2740	50.1
	合計	5470	100.0

年齢階層

		度数	%
	10代	64	1.2
	20代	1806	33.0
	30代	314	5.7
	40代	712	13.0
	50代	784	14.3
	60代	1259	23.0
	70代	477	8.7
	8代以上	54	1.0
	未記入		
	その他		
	合計	5470	100.0

居住地域

		度数	%
	1 = 東京23区	1351	24.7
	2 = 一都三県（東京23区を除く）	1378	25.2
	3 = 政令指定都市（一都三県内の政令指定都市を除く）	1388	25.4
	4 = その他地域	1353	24.7
	無回答		
	合計	5470	100.0

性・年代

		度数	%
	男性18—29歳	938	17.1
	男性30—59歳	893	16.3
	男性60歳以上	899	16.4
	女性18—29歳	932	17.0
	女性30—59歳	917	16.8
	女性60歳以上	891	16.3
	無回答		
	合計	5470	100.0

地方区分

	度数	%
北海道	265	4.8
東北	219	4.0
関東	2847	52.0
北陸	125	2.3
中部	469	8.6
近畿	925	16.9
中国	211	3.9
四国	67	1.2
九州	342	6.3
未記入		
その他		
合計	5470	100.0

婚姻状況

	度数	%
結婚している（初婚）	2617	47.8
結婚している（再婚）	166	3.0
結婚していない（結婚経験なし）	2228	40.7
結婚していない（死別）	152	2.8
結婚していない（離別）	307	5.6
無回答		
合計	5470	100.0

子供人数

	度数	%
0人（子供はいない）	2917	53.3
1人	730	13.3
2人	1347	24.6
3人	421	7.7
4人	47	0.9
5人	3	0.1
6人以上	5	0.1
無回答		
合計	5470	100.0

日本人の幸福感の実証的研究（その2）

同居人数

	度数	%
1人暮らし	1233	22.5
2人暮らし	1700	31.1
3人暮らし	1303	23.8
4人暮らし	884	16.2
5人暮らし	252	4.6
6人暮らし	66	1.2
7人暮らし以上	32	0.6
無回答		
合計	5470	100.0

世帯形態

	度数	%
単独世帯（世帯員が一人のみの世帯）	1234	22.6
夫婦のみ	1283	23.5
夫婦（または片親）と未婚の子供	2024	37.0
2世代同居（夫婦と親）	306	5.6
3世代同居（夫婦とその子供、親）	318	5.8
その他親族（兄弟・姉妹、おじ・おば、いとこなど）との同居	133	2.4
非親族（友人・知人など）との同居	60	1.1
その他	112	2.0
無回答		
合計	5470	100.0

住居形態

	度数	%
持ち家（一戸建て）	2453	44.8
持ち家（集合住宅）	1104	20.2
借家（一戸建て）	139	2.5
借家（集合住宅）	1639	30.0
寮・社宅	112	2.0
その他	23	0.4
無回答		
合計	5470	100.0

最終学歴

	度数	%
大学院	283	5.2
大学	2716	49.7
短大・高専	491	9.0
専門学校	529	9.7
高校（旧制中学含む）	1333	24.4
中学（旧制小学含む）	114	2.1
その他	4	0.1
無回答		
合計	5470	100.0

職業

	度数	%
会社員・団体職員	1844	33.7
役員	65	1.2
自営業	326	6.0
専門職（医師・弁護士・会計士等）	139	2.5
公務員（教師・大学教員を除く）	134	2.4
教師・大学教員	52	1.0
パート・アルバイト	731	13.4
学生	376	6.9
専業主婦・専業主夫	915	16.7
その他の職業	62	1.1
無職（失職・求職中）	223	4.1
無職（定年退職・病気療養中）	603	11.0
無回答		
合計	5470	100.0